

EDIで加速する経営のイノベーション

平成29年度第3回札幌市ITイノベーション研究会 実施報告(抄)

開催日：2018年3月9日(金) 14:00~16:30

場所：札幌市産業振興センター 産業振興棟 2階 セミナールームA

主催：一般財団法人 さっぽろ産業振興財団

共催：札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム

後援：札幌市、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、北海道ITコーディネータ協議会

参加者：56社68名

プログラムと内容概略(以下、敬称略)

1 主催者挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 情報産業振興部 IT・クリエイティブ産業振興担当部長
酒巻 季彦

2 【基調講演】

「次世代企業間データ連携調査事業」取組み

(~中小企業庁委託事業「経営力向上・IT基盤整備支援事業の成果報告と今後の展開」~)



特定非営利活動法人ITコーディネータ協会 IT経営研究所 主席研究員
鈴木 修

○なぜEDI(電子データ交換)が必要か

- ・中小企業の課題
 - 慢性的な人材不足・育成難
 - 生産性向上の必要性
- ・日本国内では、大企業と中小企業を比較したとき、中小企業の一社当たりの生産性の低さが顕

著である

- ・生産性向上に向けて商取引に注目
→商取引で EDI を導入・利用している中小企業は 3 割に満たない

○中小企業と EDI

- ・2000 年代に WEB-EDI が普及されると期待された
→IT 人材育成不足の中小企業は FAX を継続
- ・EDI のプラットフォームが多岐にわたる
→受注者と発注者で、同じプラットフォームを使わなければならない
- ・大企業も中小とは FAX でやり取りせざるを得ない状況に

○今回の取り組み

- ・固有の受発注に対して、共通 EDI プロバイダを経由させる
→導入により情報の一元化、これによる業務の効率化、生産性向上へつなげる

○事業目的

- ・つながるための仕様を決める
- ・つながること及びその効果を検証する
→金融 EDI、IoT、物流のトレーサビリティとの連携も実証する
- ・効果：受発注業務の効率化
→本業の拡大、収益力向上が見込まれる

○本事業の成果

- ・中小企業共通 EDI 標準（初版）の策定
- ・3 つの文書により構成
→中小企業共通 EDI 標準仕様書
→中小企業共通 EDI メッセージガイドライン
→中小企業共通 EDI 実装ガイドライン
- ・中小企業共通 EDI の効果の測定
- ・普及計画案の策定

○生産性向上に関する結果

- ・受発注にかかる手間を削減できた
- ・社内システムとのデータ連携基盤がない参加企業では一部生産性が落ちてしまった
- ・中小企業共通 EDI 仕様の実装により既製服型 EDI が実現できることが検証できた

○今後の課題

- ・業界固有の必須情報項目の追加
- ・ゲートウェイセンター構想の検討
- ・既存の業界 EDI との接続に関する課題
- ・未来 EDI プロトコル方式によるプロバイダ間連携の課題

○普及への取り組み

普及推進協議会を立ち上げ普及に努める

- ・標準仕様の管理
- ・導入支援体制の整備・展開および、人材育成
- ・導入相談員・支援者の派遣
- ・ビジネスマッチングの機会

○IT コーディネータ協会の取り組み

- ・ 将来像、ビジネスデータ連携基盤の策定
→ 個社だと難しいが、基盤を作ることによって中小企業の底上げを目指す
 - ・ 中小企業共通 EDI 導入支援者の育成事業
 - ・ 中小企業共通 EDI 支援事業（ビジネスマッチング）
 - ・ 普及推進協議会、ベンダーコンソーシアムの事務局活動の実施
- 上記の活動を通じ EDI 普及を目指していく

3 <研究会参加企業による EDI に関する取組事例の紹介>

「北海道の中小企業における次世代共通 EDI 連携について」



株式会社イークラフトマン 代表取締役 新山 将督

○ 設立当初より、EDI を事業の中心に据えて活動してきた IT 企業

○ 次世代共通 EDI 実証検証の概要

- ・ 実証検証の目的
 - FAX など非デジタルで発注受注取引を行っている中小企業に対して、次世代共通 EDI を使用した場合の効果を測定
 - 対象業務の生産性比較
 - 参加企業からの使用評価
- ・ 業務現状の把握
 - EDI 必要項目の洗い出し → EDI システムへ対応するか確認 → 共通 EDI の実行へ

○ 道内の食品類取引のデジタル化現状

- ・ 大手企業同士や大手企業 ↔ 中小企業の取引については普及率が高い
- ・ 中小企業同士の導入状況は 1 割ほどに落ち込んでしまう

○ 実証検証のシステム環境

- ・ EDI システムを中小企業が使用する際に期待されるメリット
 - ハンドスキャナーへの対応や、必要最小限の機能による操作の容易さ
 - 当社提供の共通 EDI と一体型のため、GSV ファイルの作成やアップ・ダウンロード操作が不要
 - クラウド型システムのため、パソコン能力の影響を受けにくい、かつ短期間で使用開始が可能
- ・ FAX からの脱却を早期に行うことで、データの蓄積や業務への反映が早まる
 - 業務フローの煩雑さを緩和できる、人ではなくコンピュータが介在するため、将来的には AI などの無人化へ取り組める

○ 生産性比較

- ・ EDI 導入で、作業時間が導入前に比べ 1/3 にまで短縮できた

○EDI への課題や不安事項

- ・初期費用やランニングコストへの不安
- ・システム提供者は相手へ EDI 受け入れの仲介をしてくれるのか
- ・セキュリティーが不安
- ・個人事業主など中小企業では、コスト面で IT 機器導入への敷居が高い

○今後の普及へ向けた働きかけ

- ・利便性をあげることや、システム導入への支援体制が整っていれば不安事項は解決できる
- ・情報を FAX からデータで取得できるようになれば、ある程度溜まっていたても、処理できるようになる
- ・手書きからコンピュータへ入力する習慣をつけることも大切である

4 「平成 30 年度研究会活動について」



札幌学院大学 客員教授 / 日本イノベーション融合学会 北海道支部長
/ 札幌市ITイノベーション研究会 世話人 赤羽 幸雄

○補正予算の概要

- ・中小企業・小規模事業者決済情報管理支援事業
→委員会を立ち上げ決済情報と商流情報を連携させる仕組みを示された

○金融 EDI への取り組み

- ・中小企業と金融機関が参加する実証プロジェクトを実施する

○共通 EDI 普及事業

北海道での共通 EDI 普及推進協議会を検討中

- ・情報発信
- ・導入支援体制の整備、展開
- ・人材育成

→東名阪以外で実証環境を整備できるのは北海道のみである

○札幌市の動き

- ・生活利便性の向上や経済の活性化に向け、ICT を活用した先進的な取り組みを実施
- ・データ活用や事業の展開を検討
- ・DATA-SMART CITY SAPPORO（札幌におけるオープンデータ）の公開

○ICT 活用普及促進部会の設立

- ・札幌市 IT イノベーション研究会→札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム内における「ICT

活用普及促進部会」の活動に移行する。

- ・ IT リーディングカンパニー育成事業の一部→ICT 活用普及促進部会へ移行
- ・ 地域における先端技術（IT、IoT、AI、ビッグデータなど）の普及・利活用促進活動

5 その他

- ・ オープンデータ
 - 提供されているデータ活用アイデアの募集もしている
 - オープン化して欲しいデータのリクエストも受け付けている
- ・ 第9回札幌イノベーションセミナーは平成30年10月開催予定（テーマ：健康福祉・医療）

【研究会の様様】



年度末の、お忙しいところ多数の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

札幌市 IT イノベーション研究会につきましては、講演内でご案内いたしました様に、次年度は札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアムの「ICT 活用普及促進部会」へ移行し活動を継続いたしますので、是非引き続きご参加いただきたく、また、札幌イノベーションセミナーにおいては、10月は健康福祉・医療に、2月は食に関する皆様に幅広いお声掛けをいただきつつ、共にご参加いただきますようお願い申し上げます。

さらに、本研究会のために貴重なお話をいただきました、各講演者の皆様に心より感謝申し上げます。

今回は、共通 EDI を中心とした経営のイノベーションについてのご紹介と、北海道から発信する次世代 EDI 連携という意欲的な取り組みをご紹介いたしました。IoT、AI、ビッグデータという言葉が世の中を賑わせておりますが、これらの要素技術を効果的に活用するには、中小企業における IT 利活用の導入は避けて通ることができません。国の IT 導入支援や、札幌市でも引き続き実施を予定している IT 利活用促進事業費補助金などの活用により、EDI 導入に向けた中小企業における IT の足回りを整備することとで、今回ご紹介した EDI の実証事業の成果を生かし、更には生産性向上にも結び付く取組の一翼を担う役割として、今後、研究会に参加されている皆様の積極的な事業への取組や公的機関の支援策の活用等に期待しております。

以上